

第2章 スポーツの現状と課題

1. 大牟田市スポーツ振興計画の評価

大牟田市スポーツ振興計画の8つの目標の達成状況については以下の通りとなっています。

(1) 運動・スポーツの習慣化と機会の充実

成人の週1回以上の継続的運動・スポーツの実践者が50%以上になることを目指します。(策定時 30.6%)

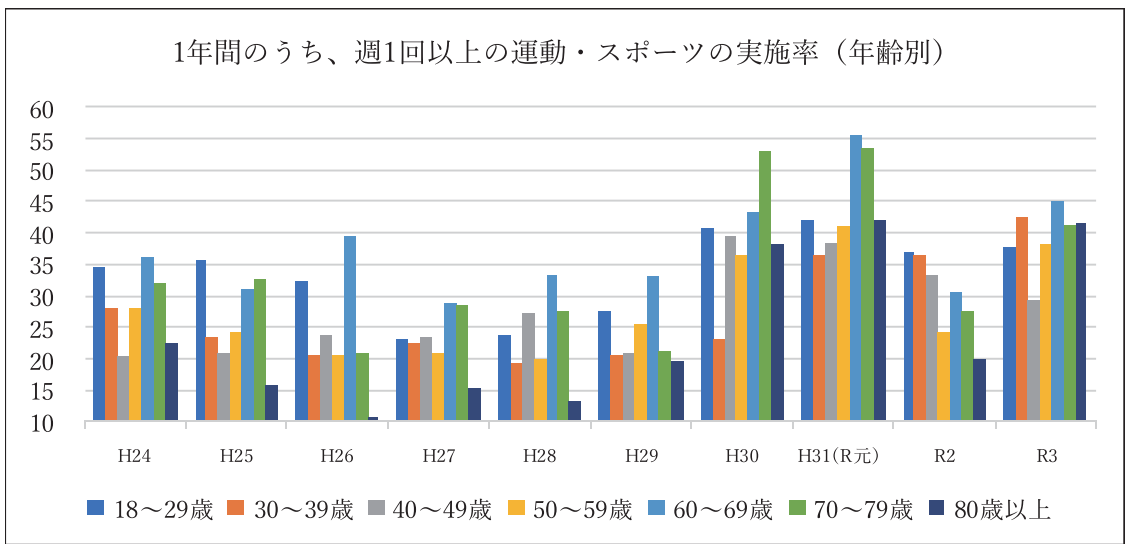
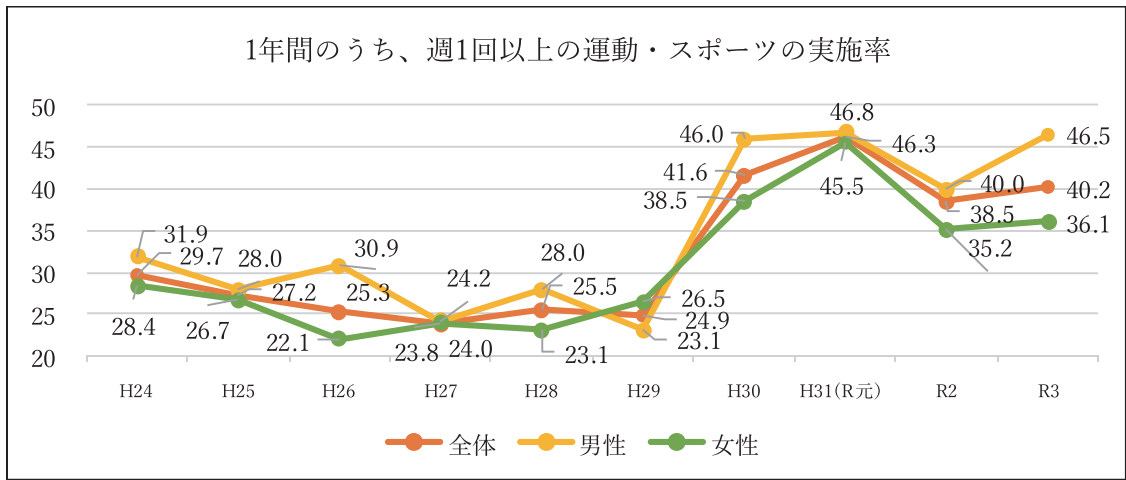


近年では、令和元年度の実施率が46.3%と最高値となりましたが、目標の50%に達していません。

特に、30歳代から50歳代の年齢のスポーツ実施率が低いのは、仕事や家事、育児、介護等が忙しくて時間がないという現状があるため、身近な場所で、わずかな時間でも気軽にできる取組みを広めていく必要があります。

	H30 年度	H31 年 (R 元年) 度	R2 年度	R3 年度
実施率	41.6%	46.3%	38.5%	40.2%

*まちづくり市民アンケート結果による



(2) スポーツクラブ加入者の増加と総合型地域スポーツクラブの創設・育成

日常的なスポーツ活動の場であるサークル等スポーツクラブへの加入率が市民の30%以上になることを目指します。また、その受け皿として総合型地域スポーツクラブの創設を支援します。(策定時26.2%)



総合型地域スポーツクラブの創設については、平成17年度に設立された「右京ふれあい健康クラブ」の1か所が活動を継続していますが、新たなクラブ設立には至っていません。

総合型地域スポーツクラブの認知度が低いことから、クラブの普及・啓発、情報提供の強化が必要です。



(3) 子どもの体力向上と健全育成の推進

小・中学生の体力テストのすべての項目が全国平均を上回るよう、児童・生徒のスポーツ活動の活性化を図ります。



令和3年度は、特に新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大きく、全国平均を下回る項目が多くみられました。

今後、体力や運動に対する課題を明確化して、児童生徒の実態に応じた体力・運動能力の向上の取り組みが必要です。

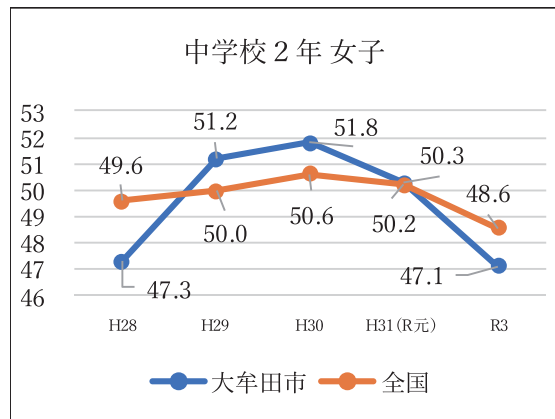
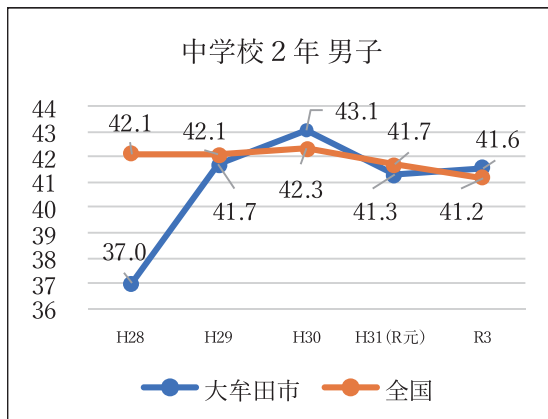
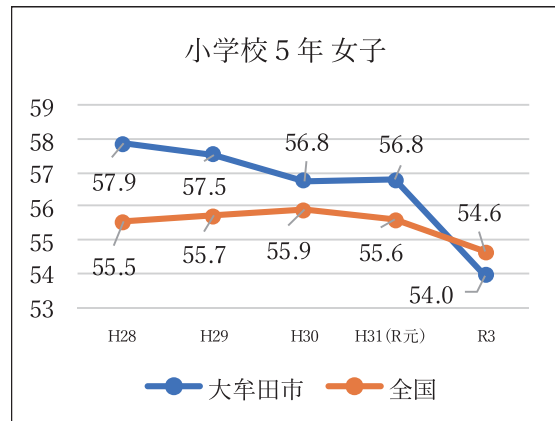
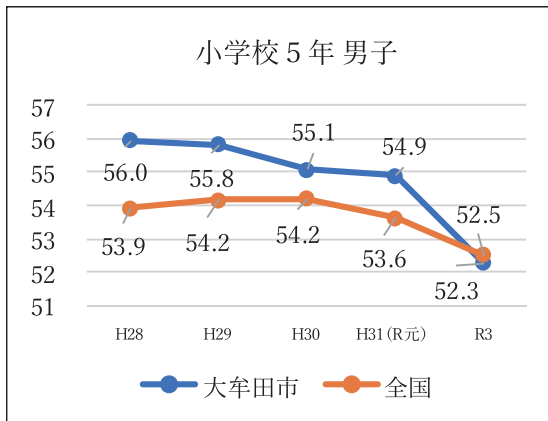
体力テスト全国平均を上回った項目数

項 目	H30 年度	H31 年 (R 元年) 度	R2 年度	R3 年度
小学生 8 項目 (男子)	7	7	-	4
(女子)	7	7	-	5
中学生 8 項目 (男子)	5	4	-	3
(女子)	7	4	-	3

* 令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため体力テスト未実施。

* テスト項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、20mシャトルラン(小学生)、ソフトボール投げ(小学生)、20mシャトルランか持久走の選択(中学生)、ハンドボール投げ(中学生)。

体力合計点



* 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（スポーツ庁）による

（４）スポーツ指導者の育成と指導力の向上

地域スポーツ、競技スポーツ指導者の養成について、スポーツ活動を継続的に指導できる新たな人材の育成・発掘に努め、派遣制度等の充実を図ります。



指導者の育成については、各種研修会等を実施しました。今後も引き続き人材の育成・発掘に努める必要があります。

- ・スポーツ推進委員の育成（研修会の開催、研修会への派遣 H23～継続）
- ・スポーツ少年団指導者研修会（スポーツ少年団：H23～継続）
- ・スポーツ医科学研修会（体育協会：H24～継続）



(5) 県民体育大会の上位入賞

福岡県 5 番目の都市にふさわしく、県民体育大会（県民スポーツ大会）総合成績 5 位以内を目指します。（策定時 7 位）



最高順位 6 位（R4 年度）

	H31 年（R 元年）度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
順位	7 位	中止	中止	6 位

最高順位は、6 位であり、目標の 5 位以内は達成できていません。

各競技団体が県民スポーツ大会の上位入賞を目標として、引き続き選手の競技力向上に取り組む必要があります。

(6) スポーツ施設の有効活用と充実

広域圏、地域施設など生活圏に対応したスポーツ施設の整備とスポーツ施設の有効活用と充実を図ります。



日本スポーツ振興センター助成事業（toto くじ助成）等を活用しながら、改修工事等を実施しました。

今後も有利な財源も活用し、老朽化した施設の改修や誰もが使いやすい安全で快適な施設整備に努める必要があります。



平成 29 年度
延命球場
スコアボード等改修



令和 2 年度
諏訪公園テニスコート
照明 L E D 化改修



令和 2 年度
御大典記念グラウンド
写真判定装置設置

大牟田市総合体育館の整備
令和 6 年 4 月供用開始予定



学校体育施設の開放状況

	H30 年度	H31 年（R 元年）度	R2 年度	R3 年度
利用人数 （団体）	192,948 人 (219 団体)	178,218 人 (245 団体)	135,955 人 (198 団体)	101,741 人 (196 団体)

（７）スポーツ情報の提供の充実

市民がスポーツ活動を展開するに当たって必要なスポーツ情報が入手できるような情報提供の充実を図ります。



日本スポーツ振興センター助成事業（toto くじ助成）を活用して、本市のスポーツに関する情報や、各種スポーツ大会、スポーツ教室などのスケジュール等を掲載したスポーツカレンダーを作成し、市内の小学校、中学校、特別支援学校の全児童・生徒、公共施設等へ配布しています。

今後もスポーツカレンダーの配布や、SNS 等による情報提供の充実を図る必要があります。



（８）スポーツを通じた新たな地域社会の形成

スポーツが新しい地域社会形成（スポーツによるコミュニティづくり）に貢献する文化として高く評価され、市民に認知されるようになることを目指します。
さらに、スポーツ活動を社会全体で支える基盤の整備を図ります。



具体的な数値目標は設定していませんでしたが、スポーツ活動は地域住民の結び付きを強め、地域の一体感を生むなど、活気ある地域づくりに大きく貢献するものと考えます。

市内の小学校、中学校、特別支援学校の体育施設はすべての学校で開放しており、身近な場所で気軽に運動・スポーツが行える環境にあります。総合型地域スポーツクラブなどの地域活動は、全校区で普及している状況ではないため、クラブの普及・啓発、情報提供の強化が必要です。

また、地域には、小学校区毎に推薦を受けたスポーツ推進委員が配置されており、今後も地域住民のスポーツ推進のための活動を充実させていく必要があります。

2. 現状と課題

I 調査の概要

1 調査の目的

市の運動・スポーツの現状、市民意識等を調査、分析し、来年度策定する「大牟田市スポーツ推進計画」の基礎資料とするために実施するもの。

2 調査対象

市 民：大牟田市在住の 18 歳以上を 1,000 人無作為抽出

スポーツクラブ：大牟田市内で活動する、各地域スポーツクラブ 253 団体

児 童 ・ 生 徒：大牟田市に所在する小学校 19 校、中学校 8 校からそれぞれ、指定する学年のうち、1 クラスずつ 710 人抽出

3 調査期間

令和 4 年 2 月 7 日から令和 4 年 2 月 28 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

インターネットによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
市 民	1,000 通	389 通	38.9%
スポーツクラブ	253 通	172 通	68.0%
児 童 ・ 生 徒	710 通	710 通	100.0%

6 調査結果の表示方法

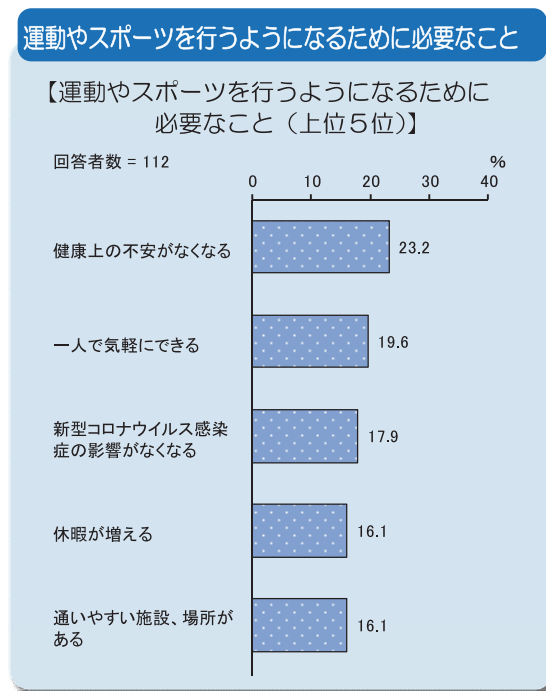
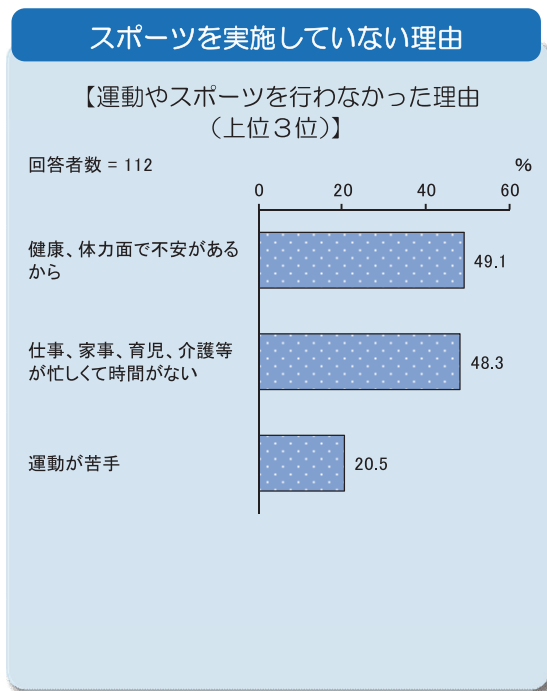
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・平成 20 年度調査では、無回答を除いており、設問によって回答者数が異なります。

II 調査から見たもの

1. 市民意識調査

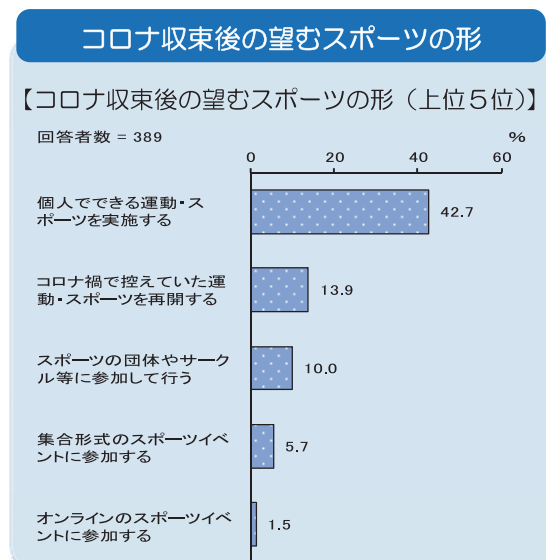
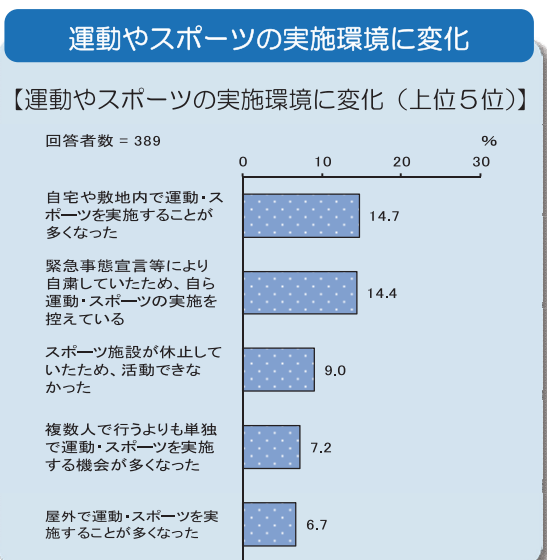
スポーツを実施していない理由、運動やスポーツを行うようになるために必要なこと

スポーツを実施していない理由としては、「健康、体力面で不安があるから」や、「仕事、家事、育児、介護等が忙しくて時間がない」等の回答が多くみられました。また、運動やスポーツを行うようになるために必要なこととして、「健康上の不安がなくなる」の割合が高くなっています。



新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症拡大により、「自宅や敷地内で運動・スポーツを実施することが多くなった」等、スポーツを実施する環境も変化しています。また、コロナ収束後は、「個人でできる運動・スポーツを実施する」の割合が高くなっています。

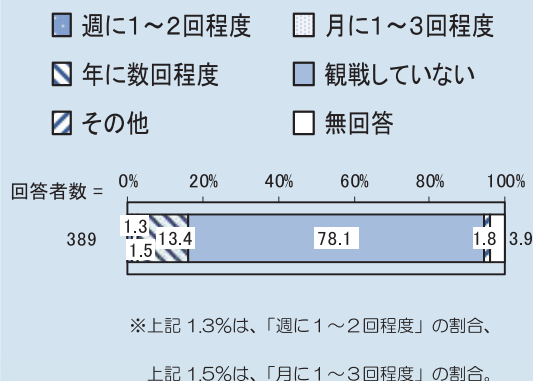


スポーツの観戦について

スポーツの観戦状況に関しては、1年間に数回以上直接観戦した市民は、16.2%となっています。実際に会場で観戦や応援した試合の種類としては、「プロスポーツの試合」「部活動、少年団、子ども会等の試合」の割合が高くなっています。

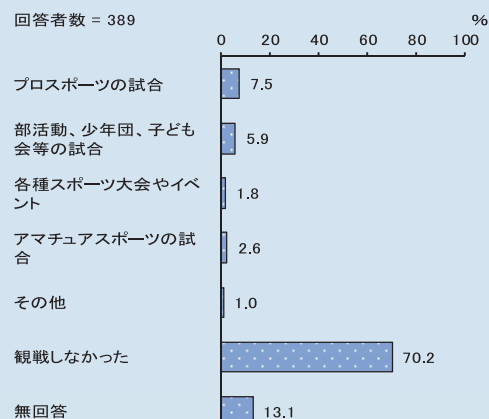
スポーツの大会や試合の観戦、応援の経験 (1年間)

【スポーツの大会や試合の観戦、応援の経験
(1年間)】



会場で観戦や応援をした試合の種類 (1年間)

【実際に会場で観戦や応援をした試合】

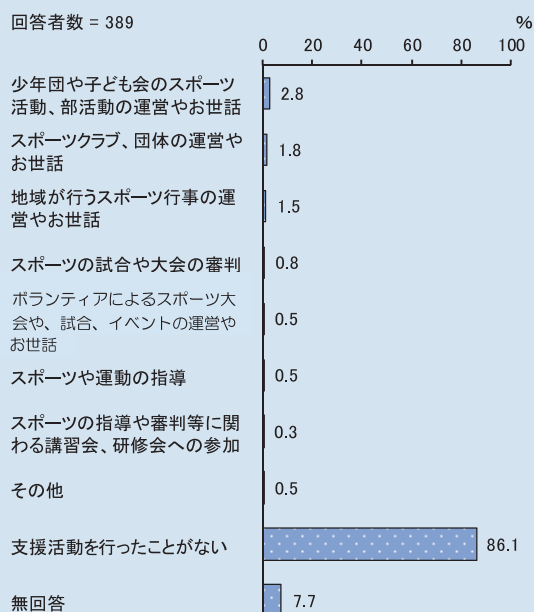


スポーツ支援活動について

関わったスポーツ支援の活動は、何らかの活動に関わった市民が6.2%となっています。また、スポーツ支援活動に、18.3%が参加意向（「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」の合計）があり、参加したいスポーツ支援活動としては、「ボランティアによるスポーツ大会や、試合、イベントの運営やお世話」の割合が50.7%と最も高くなっています。

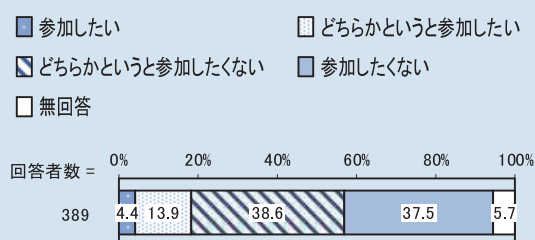
関わったスポーツ支援活動（1年間）

【関わったスポーツ支援活動（1年間）】



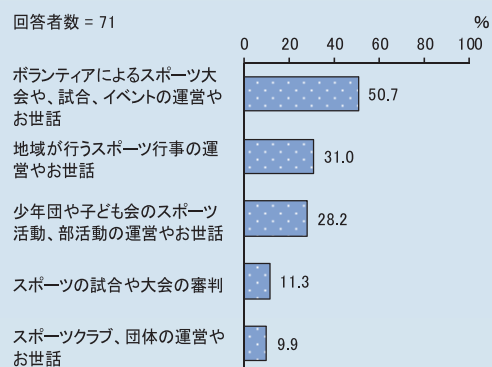
スポーツ支援活動への参加意向

【スポーツ支援活動への参加意向】



参加したいスポーツ支援活動

【参加したいスポーツ支援活動（上位5位）】

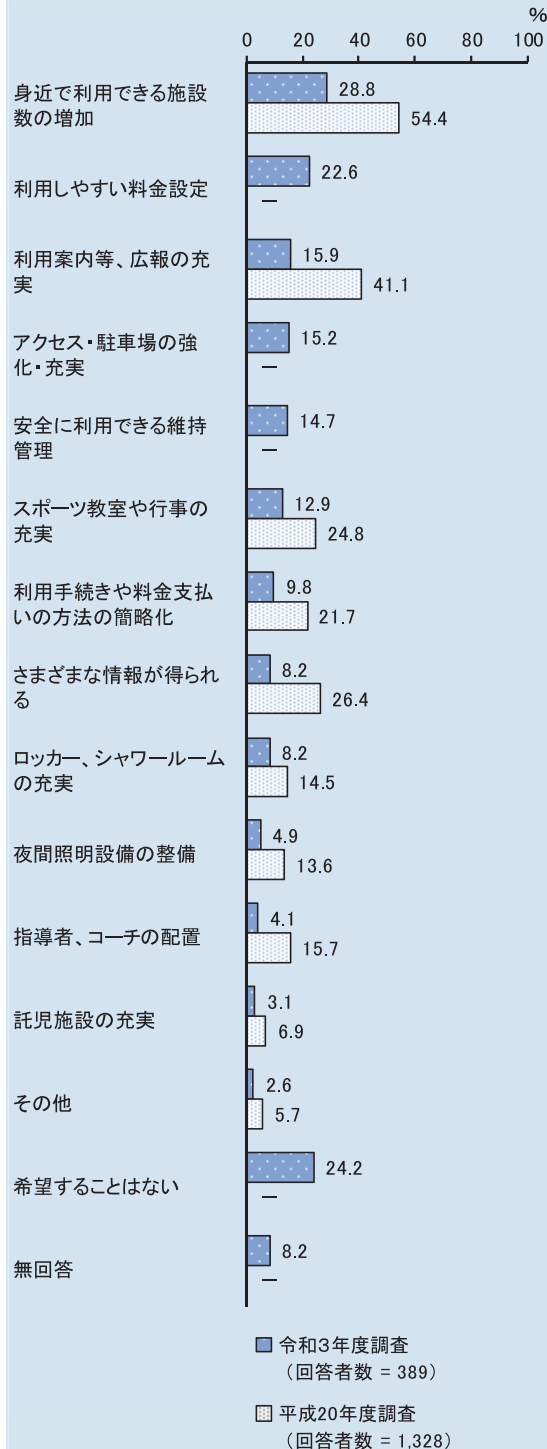


公共スポーツ施設について

公共スポーツ施設に希望することは、「身近で利用できる施設数の増加」が高くなっています。大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているものは、「災害時の防災拠点」や「延命公園や動物園等と連携した観光・集客の拠点」等、スポーツ施設だけではないさまざまな機能を望む割合が高くなっています。

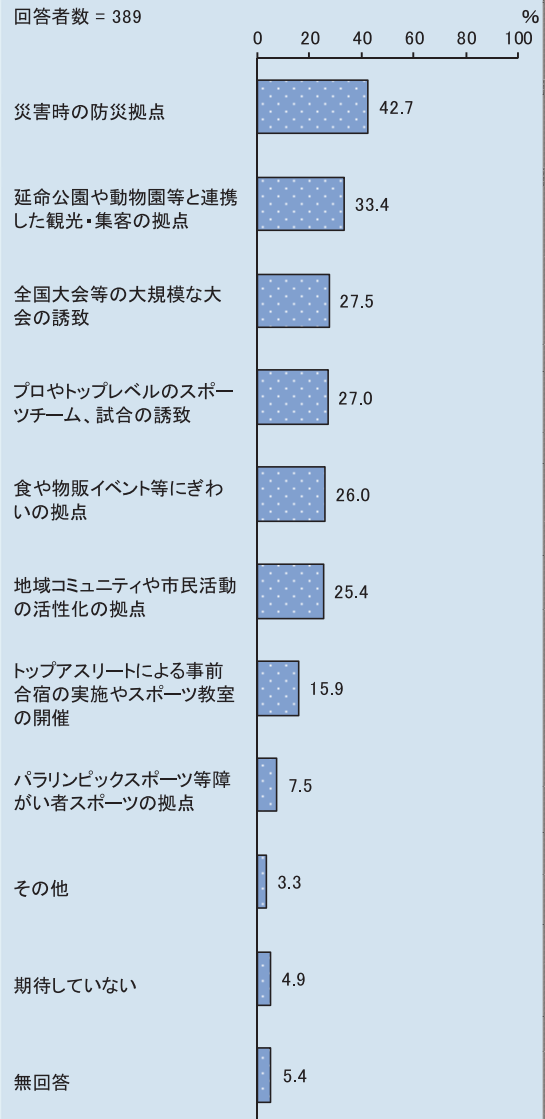
公共スポーツ施設に希望すること

【公共スポーツ施設に希望すること】



大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの

【大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの】

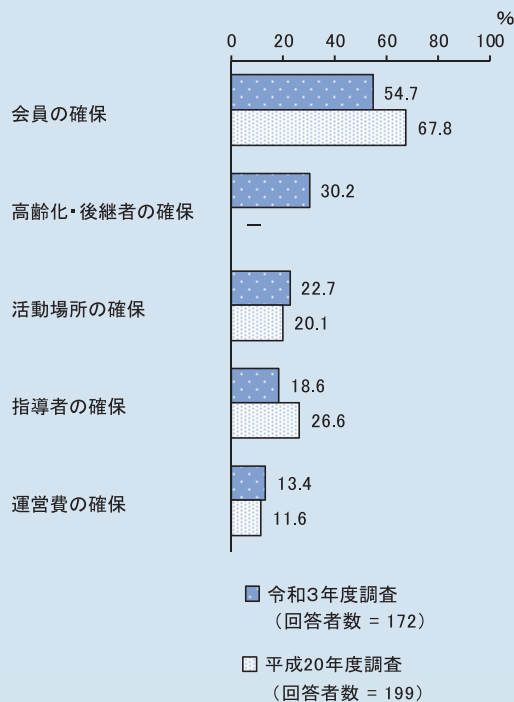


2. スポーツクラブ調査

クラブ、団体を運営する中での悩みとして、「会員の確保」「高齢化・後継者の確保」などの人材不足が課題となっています。大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で期待しているものは、「地域コミュニティや市民活動の活性化の拠点」「プロやトップレベルのスポーツチーム・試合の誘致」等、スポーツを生かした地域活性化の割合が高くなっています。

運営する中での悩み

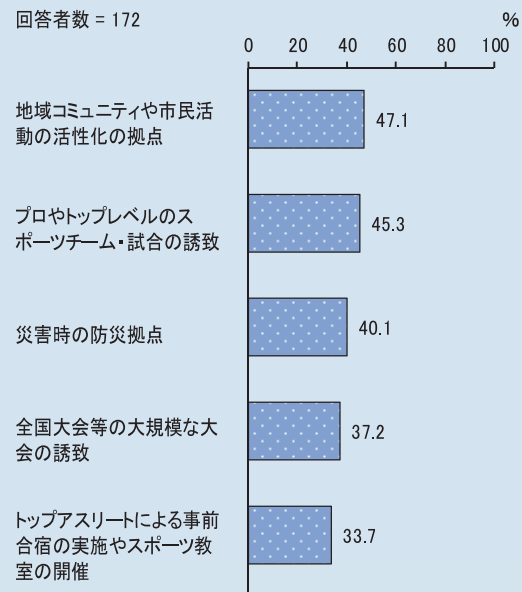
【クラブ、団体を運営する中での悩み】



大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの

【大牟田市（仮称）総合体育館が目指す施策・機能で、期待しているもの（上位5位）】

回答者数 = 172



3. 児童・生徒調査

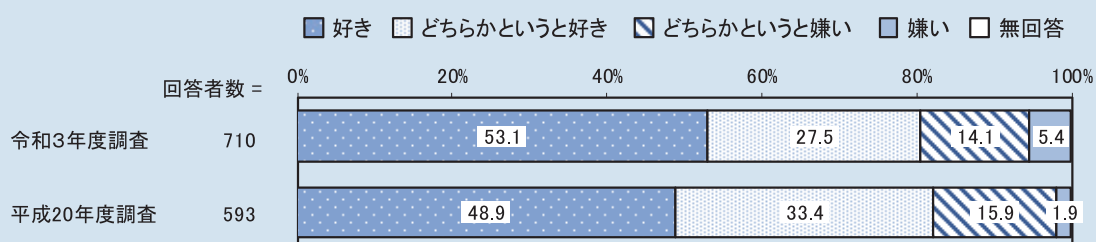
運動・スポーツの好き・嫌い

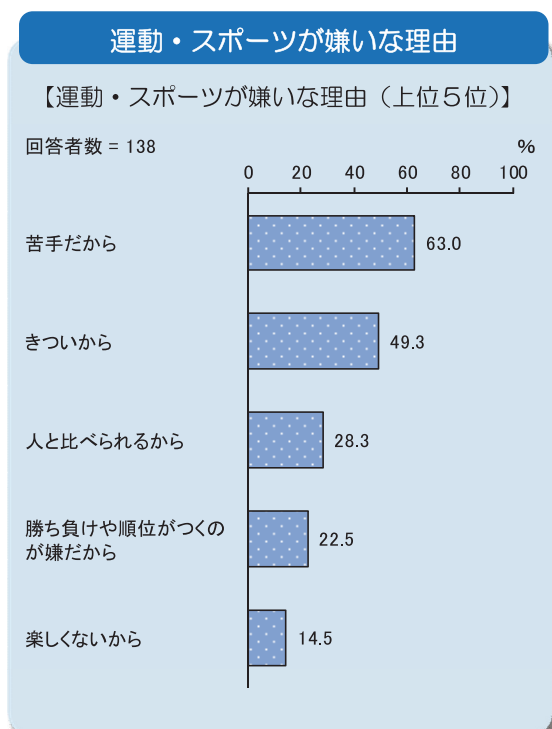
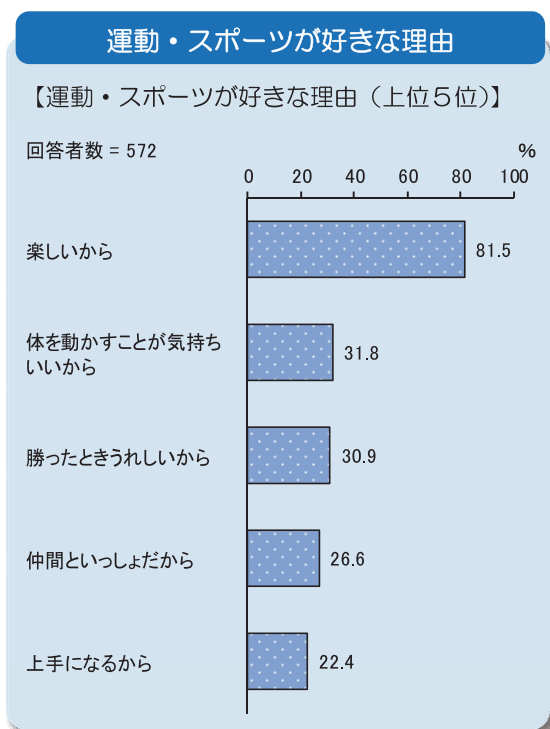
児童・生徒の運動・スポーツの好き・嫌いについては、平成20年度調査に比べて「好き」と回答した児童・生徒の割合が増加し、53.1%となっています。

好きな理由は、「楽しいから」が81.5%と高くなっています。嫌いな理由は、「苦手だから」「きついから」の割合が高く、幼い頃から身体を動かす楽しさを身に付けることや苦手意識を克服することが大切になります。

運動・スポーツの好き・嫌い

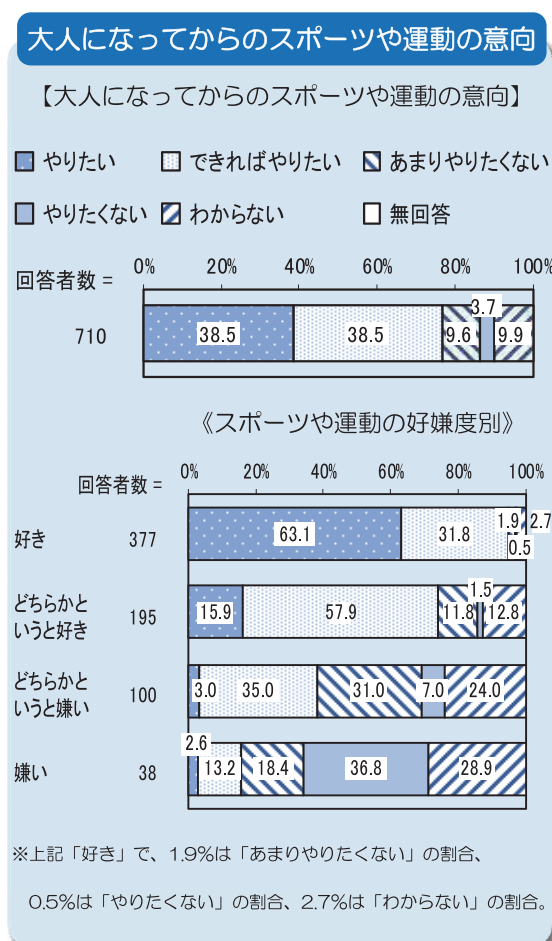
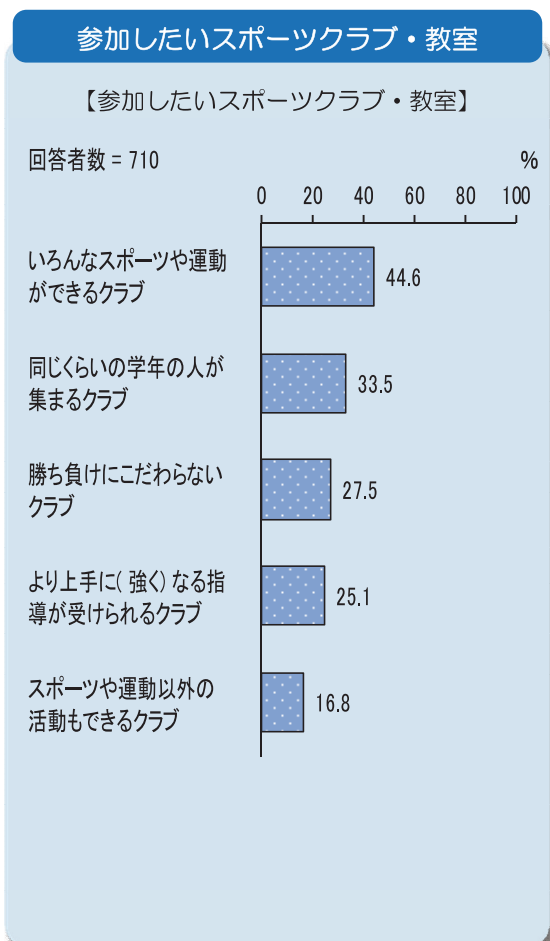
【運動・スポーツの好き・嫌い】





運動・スポーツへの意向

参加したいスポーツクラブ・教室は、「いろんなスポーツや運動ができるクラブ」の割合が高くなっています。また、大人になってからのスポーツや運動の意向については、運動・スポーツが嫌いな児童・生徒ほど、「やりたくない」の割合が高く、運動・スポーツの好嫌度が実施意向に強く影響していることがうかがえます。



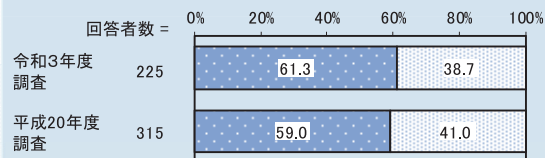
部活動について

学校の運動部活動に参加している児童・生徒は61.3%であり、94.9%が満足している（「満足」、「どちらかといえば満足」の合計）と回答しています。また、学校の部活動に期待することは、「施設を充実してほしい」「部員・仲間が増えてほしい」の割合が高くなっています。

学校の運動部活動への参加状況

【学校の運動部活動への参加状況】

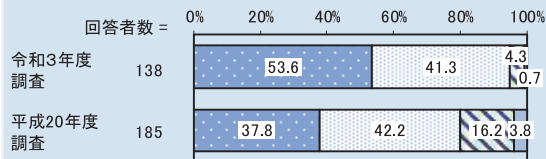
■ 参加している □ 参加していない
□ 無回答



学校の運動部活動への満足度

【学校の運動部活動への満足度】

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ▨ どちらかといえば不満
■ 不満 □ 無回答



※上記「令和3年度調査」で、4.3%は「どちらかといえば不満」の割合、0.7%は「不満」の割合。

学校の部活動に期待すること

【学校の部活動に期待すること（上位5位）】

